2024年度事業計画

公益財団法人スペシャルオリンピックス日本

Ⅰ．基本方針

当法人では、アクションプラン 2021-2025 に基づき、Be with all 事業の促進や持続可能な競技会・大会の実践、ユニファイドスポーツ®の普及、組織の基盤強化等を推進しているが、本年はアクションプランの4 年目に入るため、これまでの事業や取り組みについての実績や効果を検証し、中間評価を行うとともに次のアクションプラン策定に向けて検討に入る。

【 アクションプラン 2021-2025 】

① 事業

＜イノベーション事業＞

・“Be with all”の普及促進

・ICT を活用した事業推進

＜スポーツ事業＞

・スポーツ活動の充実

・持続可能な競技会/大会の開催

② 組織

・組織全体の適正なガバナンスの確保と最適な新組織体制の構築

・国内 SO 組織の再定義

③ 経営

・経営、財務資源の最適化

・人材マネジメント

【SON のミッション、ビジョン】

＜ミッション＞

知的障害のある人たちに年間を通じて、オリンピック競技種目に準じた様々なスポーツトレーニングと競技の場を提供し、参加したアスリートが健康を増進し、勇気を奮い、喜びを感じ、家族や他のアスリートそして地域の人々と、才能や技能そして友情を分かち合う機会を継続的に提供すること。

＜ビジョン＞

スペシャルオリンピックス日本は、知的障害のある人々とのスポーツを通した様々なユニファイド活動により、多くの気づきと行動を生み出します。

ステイトメント:　　多様な人々が活きる社会の実現を目指す

スローガン:　　「Be with all」

本ビジョンを推進する事業を「Be with all 事業」と称する。

Ⅱ. 競技会開催事業

1. 2024 年スペシャルオリンピックス日本冬季ナショナルゲーム 開催

本大会は、アクションプランに基づく持続可能な競技会・大会開催に向けての取り組みとして、分散形式の開催となるが、開催地の地区組織、自治体等、関係団体との連携を図りつつ、今後のナショナルゲームのモデルとなるような大会づくりをめざし、準備を進める。なお、フロア競技については、施設の都合上、2023 年 11 月に開催した。また、本大会は 2025 年スペシャルオリンピックス冬季世界大会・トリノへの日本選手団選考を兼ねている。

【概要】

大会名称：2024 年第 8 回スペシャルオリンピックス日本冬季ナショナルゲーム

（略称）スペシャルオリンピックス 2024 長野 ／ スペシャルオリンピックス 2024 北海道

開催地： 長野県長野市ならびに北海道名寄市

参加規模（見込み）： 10,300 名（2023 年 11 月の大会を含む総人数）

- アスリート ／ 650 名
- 役員・コーチ ／ 350 名
- 大会役員・審判 ／ 300 名
- ボランティア ／ 2,000 名
- 観客 ／ 7,000 名

実施競技等： 6 競技

・ 雪上競技：アルペンスキー、スノーボード、クロスカントリースキー、スノーシューイング

・ 氷上競技：フィギュアスケート、ショートトラックスピードスケート

※フロア競技（フロアホッケー、フロアボール）は 2023 年 11 月に開催済

開催日程及び各会場競技

・ 2024 年 2 月 11 日(日) 、12 日（月祝） ※選手団は 2 月 10 日(土)入り

（競技） アルペンスキー/スノーボード/クロスカントリースキー/スノーシューイング

（会場） 名寄ピヤシリスキー場（北海道名寄市）

・ 2024 年 2 月 24 日（土）、 25 日（日） ※選手団は 2 月 23 日（金）入り

（競技） フィギュアスケート/ショートトラックスピードスケート

（会場） ビッグハット（長野県長野市）

2. 2026 年第 9 回スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲームの開催準備

2026 年大会の開催に向け、開催方法や開催地の決定等、準備を進める。

Ⅲ. 国際大会への代表選手団の派遣事業

1. 2025 年スペシャルオリンピックス冬季世界大会・トリノ 派遣準備

【概要】

大会名称： 2025 年スペシャルオリンピックス冬季世界大会・トリノ

（英語表記：Special Olympics World Winter Games 2025）

開催地： イタリア共和国（トリノ）

開催時期： 2025 年 3 月 8 日～3 月 16 日

- ホストタウンプログラム：3 月 5 日～3 月 7 日
- 競技：3 月 8 日～16 日
- 開会式：3 月 8 日 ／ 閉会式：3 月 16 日

参加者： 108 の国・地域

-アスリート 、パートナー 2,500 名 -ボランティア： 3,000 名

実施競技： 8 競技 /SO 日本選手団は 7 競技に派遣

アルペンスキー、スノーボード、クロスカントリースキー、スノーシューイング
フィギュアスケート、ショートトラックスピードスケート、フロアボール(ユニファイドスポーツ®)、ダンススポーツ

日本選手団派遣予定人数:合計 64 名

団長 1 名・副団長 1 名/アスリート・パートナー34 名/コーチ 17 名/医師 1 名/追加スタッフ(医師、看護師、アスレティックトレーナー)3 名/役員・事務局 7 名

日程:

日程	活動
開催日未定	HOD ミーティング(現地説明会)
5 月予定	選手団選考委員会
8 月 24 日(土)	コーチミーティング① (Zoom)
9 月 7 日(土)	オリエンテーション (Zoom)
9 月 21 日(土)～23 日(月)	合宿①:合同(東京都)
11 月 2 日(土)～4 日(月)	合宿②:競技別(未定) - 氷上競技 - フロアボール
12 月 13 日(金)～15 日(日)	合宿②:競技別(未定) - 雪上競技

Ⅳ. 知的障害者の地域スポーツ活動振興の拠点となる地区組織等への支援事業

1. 地区連絡協議会、全国スポーツプログラム委員長会議(全国代表者会議)、及びブロック会議の陪席並びにブロック幹事連絡会の開催

全国代表者会議をオンラインによる開催とし、これらの会議を通じて、SON の事業方針等を全国の地区組織に共有する。また、昨年からスタートしたブロック幹事連絡会においては、全国 6 ブロックの幹事地区との情報交換や意見交換を実施し、地区組織の現状を把握するとともに地区組織への施策の検討を進める。

全国代表者会議日程:2024 年 4 月 20 日(土)

ブロック幹事連絡会:1 月、3 月、5 月、7 月、9 月、11 月に開催予定

2. 地区組織の認定及び更新、地区組織強化支援

全国 47 都道府県の SO 活動の拠点である地区組織の認定及び更新を行うとともに、スポーツ団体ガバナンスコード(一般団体向け)を踏まえた認定更新の基準等について検討を行う。

3. スポーツプログラム(SP)委員会及び競技部会活動

SP 委員長会議等の定期開催及び各競技部会の活動を通じて、国内のスポーツプログラムや競技会・大会事業等の充実と普及を図る。また、持続可能な競技会・大会事業の検討を踏まえ、具体的な競技会・大会運営計画の策定を行う。

4. 助成

・地区競技会推進支援制度 : 本年は休止する。

・地域 SO 活動への特別助成 : 大会終了後、開催地での更なる SO 活動の発展を支援するためのナショナルゲーム主管地区に対する助成(SON・愛知、SON・広島)を行う。

Ⅴ. 知的障害者のスポーツ参加及び健康増進推進事業

ユニファイドスポーツ®により、知的障害のある人（アスリート）と知的障害のないパートナーが共にスポーツに親しむことで、社会におけるインクルージョンの促進に寄与すると共に、ヘルシー・アスリート・プログラム（HAP）等のヘルス分野に加え、医療安全分野を充実させることで、知的障害者の包括的なスポーツウェルネスの向上をめざす。

1. ユニファイドスポーツ®の普及 【Be with all 事業】

ユニファイドスポーツ合宿やウェビナー等を通じて、ユニファイドスポーツ®の認知訴求と理解促進を図る。

2. 多様なアスリートの参加促進

- 女性アスリート、ジュニア、幼児(ヤングアスリート)等のアスリートの参加促進
- 障害や加齢等による運動能力の低いアスリート向けの活動内容に関する検討

3. ヘルスケアの啓発と実践

スポーツウェルネス委員会にて、従来のヘルス分野に加え、メディカル分野の充実を図る。
また、冬季ナショナルゲームでの HAP の実施に加えて、Medfest の展開を通じて
ヘルシーコミュニティ事業を推進する。

- ヘルシーコミュニティ事業の推進

  冬季ナショナルゲームにおける HAP の実施（2 月　長野：ビッグハット）

  Medfest の実施（世界大会派遣選手団合宿、その他）

  ※　Medfest とは

  HAP の１部門であり、メディカルフォームを基にスクリーニングを行い、アスリートやユニファイドパートナーがスポーツを　安全に行えるかどうかの確認を行う。MedFest はアスリートやユニファイドパートナーの入会時のメディカルフォームおよび世界大会のエントリーフォームとしても採用されている。

4. 医療安全の充実

専門委員会スポーツウェルネス委員会を通じて、アスリートやユニファイドパートナーを始めとする SO 関係者が安全にスポーツ活動を行えるよう医療安全面での充実を図る。
また、大学医学部や SO 活動経験を持つ医療従事者との連携を図ると共に、次世代の人材確保や育成に繋げる。

Ⅵ. ボランティア、指導者、審判員等育成事業

1. 指導者養成

- SON　認定コーチやこれから認定コーチを目指す方を対象に各種研修会を開催すると共に、SOI が展開するグローバル・コーチ・エデュケーションシステム（ラーニング・ポータル）との連動及び Coach Development Plans の策定、実践を図る。また、専門機関や外部講師等との連携を通じて、研修内容の充実や研修の IT 化に取り組むものとする。

・ コーチクリニック
ゼネラルオリエンテーション・アスリート理解（Web 会議システムによるオンライン講習等）
競技座学（YouTube 視聴によるオンデマンド講習）、競技実技（対面型講習）
・ コーチアカデミー（Coach Development Plans として SOI 助成金を活用し実施）等
・ トレーナー養成講座

2. ボランティア育成

オンラインコーチクリニック等により、知的障害者スポーツ分野のボランティアの育成の機会を広げると共に、冬季ナショナルゲームを通じて開催地域でのボランティアの活動を促進する。

Ⅶ. 広報・啓発事業

1. 資金調達・マーケティング（渉外活動）

事業活動を円滑におこなうための資金調達活動を行うとともに今後の資金調達の在り方を検討する。
また、知的障害のある人たちの社会参加への課題を共有し、既存支援企業とともに協働出来る事業を検討していくことにより、共生社会の促進につなげていく。

2. 広報・啓発

「Be with all」 の世界観及び活動等を訴求するために、ユニファイド活動を中心にした広報活動を展開する。特に、オンラインを用いた支援企業やパートナー団体との取り組みや、アスリート自身が発信する広報活動を重点的におこない、スペシャルオリンピックスが持つメッセージと「Be with all 事業」の可能性を積極的に発信する。

【Be with all 事業】
・ B リーグとの「Challenge with all 」連携事業の促進と普及
・ 支援企業、パートナー団体と連携した広報活動、ユニファイドアクティビティ
・「アスリートアンバサダー」をはじめとした、アスリート自身が発信する広報活動の充実
・ 産官学モデルの大学との連携事業
・ オンラインを活用したイベントや広報活動
・ SON 各種事業を通じた広報活動

＜アスリートリーダー活動の推進＞

スポーツ活動以外においても、多様な機会を提供しアスリートの発信力を高め、アスリートリーダー活動の充実を図る
・ アスリートアンバサダー活動
・ その他オンラインを活用したイベント
・ 教育機関と連携し、アスリートと学生との協働プログラムを通じた事業を推進する。
・ アスリートリーダー委員会（仮）の新設準備
継続的なアスリートの参画を通じアスリートのエンパワーメントの促進を図るため、アスリートアンバサダー等を中心にした当事者よる専門委員会の設置をめざし、本年は定期的なミーティング等（研修含む）を実施し、アスリートが主体的に会議参加や委員会活動に取り組むことができるよう準備を進める。

3. 外部連携

・教育機関等との連携によるユニファイドスクール活動の推進

学校や大学等と連携し、ユニファイド活動を推進することで共生意識への醸成に寄与する。

・スポーツ団体等との関係強化

推進競技の普及及び大会開催のために様々なスポーツ団体との連携強化を図ると共に、行政機関、各障害者団体、支援先等との連携をより一層深める。

Ⅷ. 調査研究事業

設立 30 周年記念調査報告書の発行並びに、研究発表会等の開催。

以上